

大阪・水辺のランドスケープ調査報告書

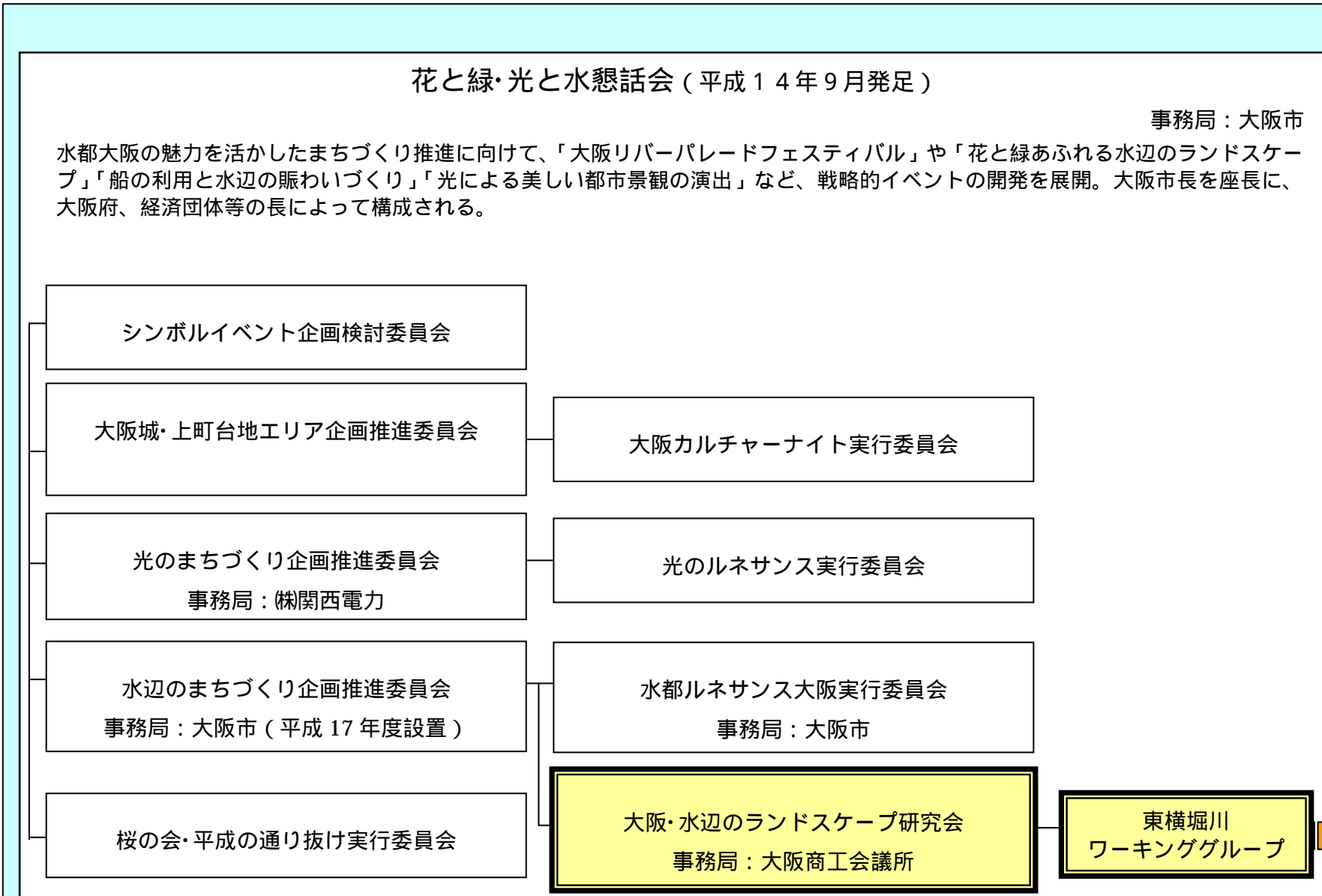
東横堀川・水辺の魅力向上プログラム



平成18年3月
大阪商工会議所

1. 提案の背景 「水の都」大阪再生に関連する取り組み体制

大阪では、「大阪リバーフロント整備のランドデザイン（平成7年）」および「水の都大阪再生構想（平成15年）」などの策定を受け、公民協働によるオール大阪での水の都・大阪再生の取り組みが行われている。平成17年度は、花と緑・光と水懇話会の下部組織として水辺のまちづくり企画推進委員会が設置され、さらに大阪・水辺のランドスケープ研究会、東横堀川ワーキンググループが位置づけられた。



民間による取り組み例

関西経済同友会「水都・大阪」推進委員会（平成15年発足）
共同委員長：堀井良殿大阪21世紀理事長、鳥井信吾サントリー副社長、佐藤茂雄京阪電気鉄道社長
大阪の企業を中心に構成される。地元の伝統行事と統合した堂島薬師堂「節分お水汲み祭り」の挙行、歴史ロマン『熊野御幸行列』の挙行および八軒家浜再生等の研究など、分科会ごとに具体的な取り組みを行っている。

NPO法人水辺のまち再生プロジェクト（平成10年発足）
大阪の水辺のまち再生を目的として設立。大阪の都市河川を中心に水辺での市民活動の活性化等に取り組んでいる。

<エリア毎の取り組み>

八軒家浜・中之島舟運連絡活性化会議（平成16年発足）
事務局：財団法人大阪地域振興調査会
八軒家浜・中之島の再生および舟運事業の活性化を目指し、大阪都心に関わりある舟運事業者や関係者が設立。平成17年度は都市再生モデル調査により、八軒家浜の管理運営の検討および淀川広域連携社会実験を実施。

中之島まちみらい協議会（平成16年発足）
従来から存在した民間地権者を主とする「中之島西部地区開発推進協議会（13社）」と「中之島2・3丁目街づくり協議会（13社）」を合わせて再設立。中之島地区の親水性を活かした賑わいあふれるまちづくりを目指している。

道頓堀川を考える協議会
川に隣接する商店会、地元企業、市民グループ、連合町会で構成される。遊歩道の活用提案や、道頓堀川周辺のまちづくりについての検討等を行っている。

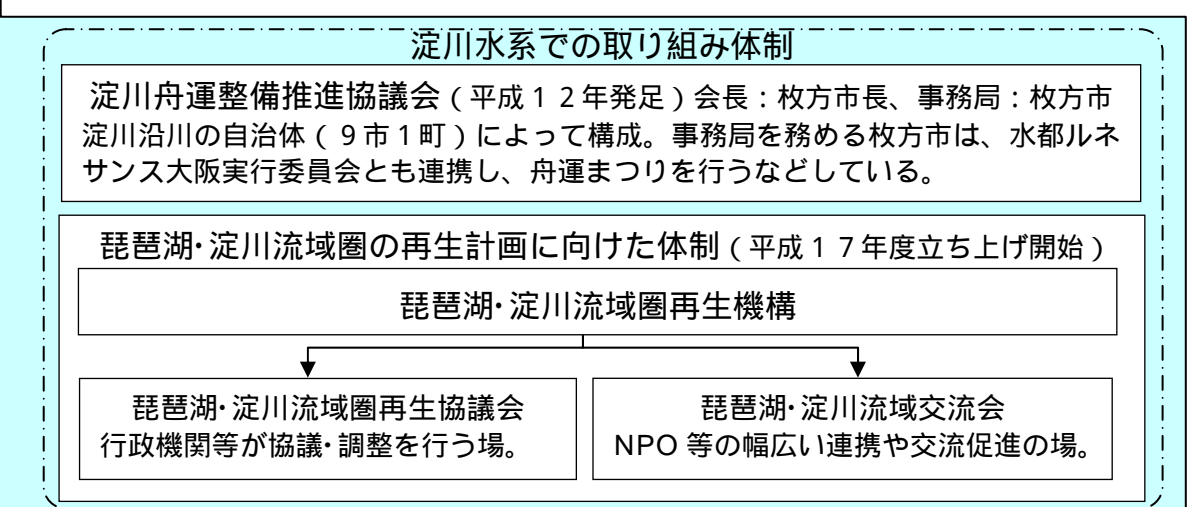
(仮称)東横堀川水辺再生協議会（平成18年設立予定）

水の都大阪再生協議会（平成14年10月発足）
事務局：大阪府・大阪市

オール大阪で「水の都大阪」再生に取り組む枠組みとして設置した。ハード整備を中心に事業を展開。大阪商工会議所会頭を会長に、国の機関、大阪府、大阪市、経済界等の官民の関連組織によって構成される。

水都大阪再生水上交通活性化推進協議会
事務局：近畿運輸局

水上交通の活性化及び観光振興の方策を検討し、具体化を行っている。大阪府、大阪市、民間舟運事業者等で構成される。



1. 提案の背景 水の回廊・ランドスケープの現況

中之島ゾーン

地区の概要

位置：梅田を中心としたキタと船場地区の間に位置する中枢業務ゾーン

河川延長：堂島川 約 2.9km、土佐堀川 約 3.1km

河川幅員：堂島川 平均約 70m、土佐堀川 平均約 45m

土地利用：西部は高層業務ビル街、東部は文化施設や公園緑地

地域資源：中央公会堂、日本銀行、大阪市役所、東洋陶磁美術館、国際会議場

河川景観について

特徴：水都大阪を代表する河川であり、川幅が広く、水量も豊か。中央公会堂や意匠を凝らした橋梁等、景観資源も多い。

問題点：水面からの眺めは垂直護岸により分断されている。ブルーテントが目立つ。

優れた点：橋上や沿川の遊歩道など、水辺を眺める場が多い。若松の浜は川に面して整備されており、天神祭りの演出にも適している。壁面が緑化されている護岸がある。



広々とした河川景観



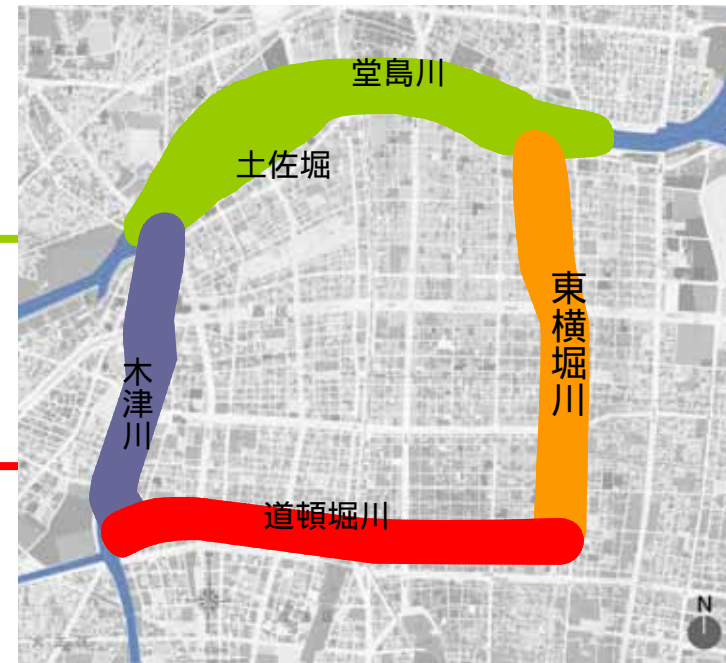
中之島公会堂と緑化された垂直護岸



沿川のブルーテント



平成 17 年夏に整備された若松の浜



木津川ゾーン

地区の概要

位置：都心の西の外延部

河川延長：約 2.0km

河川幅員：平均約 50m

土地利用：運輸施設、業務施設及び文教施設が混在

地域資源：大阪ドーム、松島公園 川口教会

河川景観について

特徴：河川の幅員は広く、ゆったりとした河川景観となっている。また、沿川の建物には特色がない。

問題点：護岸の壁面にブルーテントや落書きがある。垂直護岸によって陸側の景観が疎外されている。

優れた点：川に向けてカフェや倉庫の応接室が設けられるなど、川に向けた取り組みが見られる。護岸にはペインティングが施されたり植栽が施されるなど、護岸の修景整備が進められている。



ゆったりとした河川景観



護岸の落書き

沿川の修景整備

道頓堀川ゾーン

地区の概要

位置：ミナミの中心部

河川延長：約 3.0km

河川幅員：平均約 35m

土地利用：東部は商業施設が中心で宿泊施設等が混在、西部は商業施設や業務施設とともに運輸施設が立地する

地域資源：港町リバープレイス、とんぼりリバーウォーク、心斎橋筋商店街、道頓堀商店街、松竹座、上方浮世絵博物館、法善寺

河川景観について

特徴：東部は狭い河川沿いにネオンが輝く商業ビルが立ち並び、観光名所となっている。西部は河川の幅員がやや広くなり、大規模な集合住宅や倉庫、事務所などが並ぶ。

問題点：川に背を向けた沿川のビルは老朽化が著しく、沿川には工事中の箇所が多い。

優れた点：とんぼりリバーウォーク沿いには、川に顔を向けた店舗が増加中。港町リバープレイスの対岸に顔を向けたカフェがある。



ネオンが輝く商業ビルが立ち並び観光地



とんぼりリバーウォーク

東横堀川ゾーン

地区の概要

位置：船場地区の東、上町台地の北部に位置する

河川延長：約 2.4km

河川幅員：平均約 20m

土地利用：商業施設及び業務施設が密集している

地域資源：マイドームおおさか、大阪産業創造館、高麗橋、本町橋、東横堀川河岸公園、道路元標跡（京街道・紀州街道）

河川景観について

特徴：高速道路の高架が全体を覆っており、護岸が高く、閉鎖的で暗い空間となっている。

問題点：沿川ほとんど歩くことができず、垂直護岸が切り立っており、水辺へのアクセスに問題がある。沿川のビル壁面の汚れや老朽化が目立つ。

優れた点：沿川には川に向けてテラスを設けているカフェや、窓際に花を飾っている店等がある。歴史的価値があり、意匠も美しい橋梁がある。



高架に覆われた閉鎖的な河川空間



水門と沿川の公園



川に背を向けた沿川の建物



川に向けて窓辺を飾る沿川の店舗

1. 提案の背景 東横堀川の現況

1) 背景

大阪では、「大阪リバーフロント整備のグランドデザイン（平成7年）」や「水の都大阪再生構想（平成15年）」などを策定し、オール大阪による水都再生の取り組みを進めている。

このような流れの中、大阪商工会議所都市再生委員会は、水都大阪の中心部・口の字（水の回廊）の沿川部における水辺の景観魅力の向上を目指し、平成17年8月、「大阪・水辺のランドスケープ研究会」を設置した。同研究会では、地域とともにより具体的に取り組みを進めるため、東横堀川（葎屋橋～農人橋）を対象とし、平成17年10月、東横堀川ワーキンググループを設置し、地元ワーキングを重ねている。



【対象エリア】

東横堀川は、琵琶湖・淀川流域圏の再生計画において、今後10年間のなるべく早い時期に供用を目指す「川の駅」の候補地点としても位置づけられており、船着場が整備されるなど、今後大きく河川環境が変化する可能性を備えた地区であり、地域によって川づくりの方向性を検討することが重要となってきている。

なにわ探検クルーズ

平成15年運航スタート

延べ乗船人数 55,479人（平成17年まで）

	平成15年	平成16年	平成17年
運航回数（便）	524	619	687
乗船人数（人）	16,652	18,037	20,790

2) 東横堀川の問題点

高架道路と垂直護岸に囲われた閉鎖的な河川空間

河川上部に阪神高速道路の高架道路が通り、両岸ともに高い垂直護岸となっているため、全体として閉鎖的で暗い空間になっている。特に、高麗橋進入ランプ（左岸）、本町出口ランプ（右岸）付近では、高架道路がグランドラインまで下りてくるため、水際空間の活用がほぼ不可能となっている。



川面が見える空間の不足

沿川には薄く業務・商業系のビルが立ち並んでおり、川面を見ることができる空間が少なくなっている。また、沿川の公園についても、護岸が高く、川面を見ることができない場所がある。

沿川公園での安心感の無さ

沿川の公園は道路から視覚的に分断され、アクセス路も少なく、利用者が少なくなっており、路上生活者が多い。また、ゴミの散乱や違法駐輪などもみられ、管理状況の悪さが、昼間でも利用しづらい雰囲気を生んでいる。

川に背を向けている沿川建物

沿川に薄く張り付いている建物は、川側の外壁のメンテナンスが悪かったり、室外機を川側に設置する傾向があるなど、川を「裏側」としている。

十分に活用されていない歴史資源

高麗橋の里程元標や本町橋の町奉行所跡など、多くの歴史的資源が存在するにも関わらず、メンテナンスの悪さや情報発信の不足などから、十分に活用できていない。

両岸を一体的に管理する地域組織の不在

東横堀川は連合町会範囲のエッジであり、両岸を一体的に管理する主体がない。沿川の公園は、中大江西連合町会の公園愛護会が、左岸の一部を部分的に管理しているのみである。



3) 東横堀川のポテンシャル

他の都心河川とは異なるオンリーワンの魅力

川幅は平均約20mであり、他の都心河川に比べて特に狭いことが、東横堀川の個性となっている。また、高架道路や垂直護岸などの景観マイナス要素も、東横堀川の個性と捉えることにより、大川や道頓堀川とは違った、静かで落ち着きのある水辺づくりの可能性がある。

大阪最古の堀川としての歴史資源の集積

大阪の堀川の中でもっとも歴史が古く、1585年開削といわれている。町人町としての船場と武家屋敷町・上町の境界であったため、高麗橋・本町橋・農人橋の3つの公儀橋が架けられるなど、大阪を代表する歴史を有している。



拠点となる公共公益施設の集積

大阪産業創造館や中央区役所、東警察署、マイドームおおさか、大阪商工会議所、シティプラザ大阪（建設中）など、拠点となる公共公益施設が集中しており、他地域からの来街者も多い。

民間による川へ向けた取り組みの機運の高まり

川沿いの立地を活かしてホテルが計画されたり、川沿いのショップが川にテラスや看板を設けるなど、なにわ探検クルーズの就航もきっかけとなり、川に向けた取り組みの機運が高まっている。



多様なまちづくりの担い手の存在

昔から代々住み続けている住民から、企業の就業者、新しいショップのオーナーまで、新旧の人々が地域に混在しており、川づくりの多様な担い手が期待できる。

2. 東横堀川ワーキンググループによる検討

1) 東横堀川ワーキンググループの活動

平成17年秋から、地域住民や地元企業・ショップで働く人を中心に、東横堀川の水辺の魅力向上を目指し、活動をしてきました。

東横堀川ワーキング準備会

案件：メンバー顔合わせと情報交換

日時：平成17年9月20日(日) 19時30分～21時

場所：フリースペース HUSH

第1回東横堀川ワーキング

案件：取り組み内容とワーキンググループの体制について、船上ワークショップについて

日時：平成17年10月14日(日) 19時～21時

場所：大阪商工会議所 地下1階 3号会議室

東横堀川船上ワークショップ

テーマ：東横堀川の水辺を良くするアイデアを語ろう

日時：平成17年11月27日(日) 10時～13時

場所：東横堀公園 (徒歩) 北浜 (徒歩) 若松の浜港～東横堀川～土佐堀川(梅檀の木橋 Uターン)～大川(OAPでUターン)～堂島川(水晶橋の中央公会堂前でUターン)～若松の浜港

参加者：地元住民や地元就業者(15名) 研究会委員など関係者(7名) 専門家(2名) 事務局(4名)

第2回東横堀川ワーキング

案件：「水辺の魅力向上についての提案(案)」について、今後の組織のあり方と取り組みの進め方について

日時：平成18年2月21日(日) 19時～21時30分

場所：大阪商工会議所 4階 特別会議室



【活動通信「東横堀水辺ランドスケープ瓦版」】

2) 提案へ向けた意見のまとめ

ワーキングや船上ワークショップでのやり取りの中で、東横堀川の水辺の魅力向上に関して様々な意見が出されました。

<おもしろ意見集>

高架下プラネタリウムなど、東横堀川の特徴を活かして、不思議な空間を演出。

今橋から高麗橋の高速ランプを中止して、並び蔵を再生したい。

水面に納涼床のような浮き桟橋を出して、お店やイベントを開く。護岸は乗り越える!

東横堀公園、本町橋の橋詰を船の発着所にしてほしい。

川といえば「水の流れ」。東横堀川は水の流れがないので、人工的でも「水の流れ」をつくり、ライトアップなど演出する。

春は桜、秋は紅葉と、季節ごとに楽しめる植物で緑化したほうがよい。

川の水に直接触れることができる場所が欲しい。そうすれば川から水を汲むことができ防災用水になる。

地元の幼稚園や小学校の生徒に魚を放流させたら、子どもを通して川への関心が生まれ、地域で川を支えていけるのでは?

葭屋橋と中之島公園の間に人と自転車専用の橋をかけて、中之島から道頓堀まで川沿いを歩けるようにする。

高架下が薄暗い。高速道路の高架の高さを3倍にしたら、川面に陽が当たる?



【船上ワークショップの様子】

<キーワードの抽出>



3. 水辺づくりの目標と基本方針

ワーキングおよびワークショップでの意見から、東横堀川の水辺づくりの目標と基本方針をまとめました。

ワークショップから出されたキーワード：

問題点	閉鎖的な河川空間・川面が見えない・安心感の不足・手入れの悪さ・川に背を向けた建物・歴史資源の活用不足・管理組織の不在
ポテンシャル	まちなかに立地・オンリーワンの魅力・歴史資源の集積・公共施設の集積・民間の取り組みの機運・多様な担い手
アイデア・思い	沿川建物の魅力向上・季節感・ライトアップや花緑の装飾など演出・川辺へのアプローチ・川面への視線・川と陸の拠点作り・人のネットワーク・憩い・イベント・環境教育・意識改革

(仮)

目標

まちなかに生きる
東横堀川

～都心ならではの人と水のつながりを育む、
オンリーワンの水辺づくり～

水辺づくりの基本方針(案)	取組みアイデア
水面に映え、季節の移り変わりを感じる水辺にしよう ～「よそおう」水辺づくり～	窓やベランダなど(開口部)に花や緑を飾る 川に向けてライトアップする 川沿いの壁面をきれいにペインティングする 川に開いた建物デザインにする 水門や高速道路高架など既存施設を活用する 季節ごとに楽しめる並木づくり 公園を掃除して気持ちよく保つ
川とまちを人が行き交う水辺にしよう ～「つなげる」水辺づくり～	地域に住む人やお店で働く人のネットワークづくり 川の駅や川の博物館など、船着場と一体となった拠点づくり(防災用の水汲み場としても活用) 歩きやすく水辺を楽しめる遊歩道づくり 川へ向けて陸の情報を伝える川の標識づくり 川沿いの公園へのアクセス路を増やす
人々が集い楽しめる水辺をつくろう ～「たのしむ」水辺づくり～	川辺での納涼祭など季節の行事づくり(地域の祭りなどと連携する) 花飾りコンテストやウォークガイドツアー等の水辺に親しむイベントを開催する オープンカフェなど人々が集う場所づくり
水辺の思いと情報を伝えよう ～「つたえる」水辺づくり～	まちや水辺の情報を盛り込んだマップ・HPづくり 水辺の名所に碑を設置するなど街なか情報ポイントづくり 地域情報誌などへ情報を掲載する 飲食店などを中心としたクチコミでの情報発信や交流を活発にする なにわ探検クルーズで東横堀川の情報を伝えてもらう 地元小学生が魚を放流するなど環境体験学習の場にする 「川との付き合い方(川遊び、危険なことなど)」入門冊子づくり(地元のお年寄りに話をきく) 花と緑の育て方教室を開催する

4. エリア全体での取組みアイデア(案)

景 観

出来るところから、自分達の手で。沿川に民間建物が立ち並ぶ東横堀川では、沿川の景観向上のためには、地域の自主的な取組みが不可欠となります。一人一人の小さな工夫の取組みの積み重ねによって、大きな景観の魅力向上を目指します。

(例示)

- ・ 窓辺飾りコンテスト
- ・ 川ぐるみライトアップ作戦
- ・ 建物ウラオモテキャンペーン

広 報

水の都・大阪、水の回廊の一翼として、地域内だけではなく、広く地域外へも東横堀川の情報発信、アピールします。

(例示)

- ・ 地域資源マップ・HPづくり
- ・ 東横堀川・水辺フォーラムの開催
- ・ 沿川店舗のスタンプラリー

環 境

水門や平成の太閤下水の整備など、水質改善の取組みが進められている東横堀川。地域でもその活動をバックアップすると同時に、川の環境を考え、学ぶ場とします。

(例示)

- ・ 川の掃除隊
- ・ 水質調査隊
- ・ 水質浄化生物の飼育

舟 運

東横堀川には船着場がなく、堂島川の若松の浜(大阪府)、道頓堀川の太左衛門橋船着場(大阪市)など、近隣の河川の船着場を利用するしかないのが現状。現在、大阪市により、東横堀川の船着場整備の検討が進められており、地域としてこれに働きかけていきます。

研 究

まだまだ地域の人知らないことがたくさんある東横堀川。その歴史や文化を学び、地域の愛着を育むと同時に、魅力向上の資源として活用します。








(例示)

- ・ 地域の長老へ昔話の聞き取り
- ・ 地域の歴史再発見勉強会

5. ゾーン別の取り組みの方向性

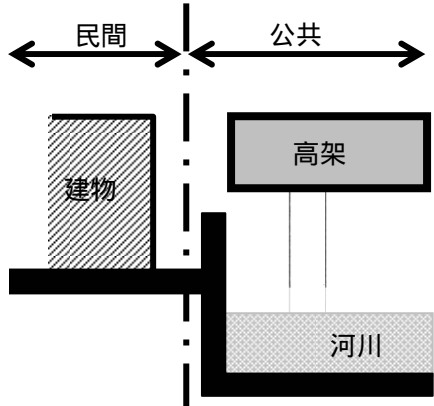
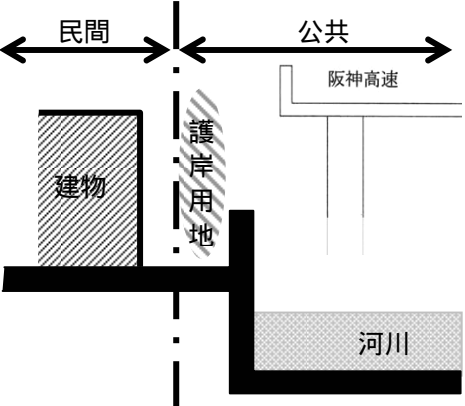
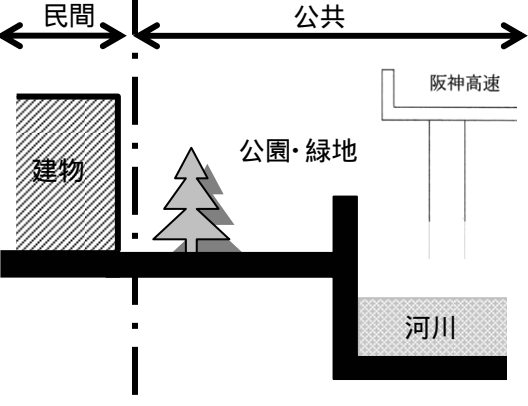
1) ゾーン別の現状と問題点

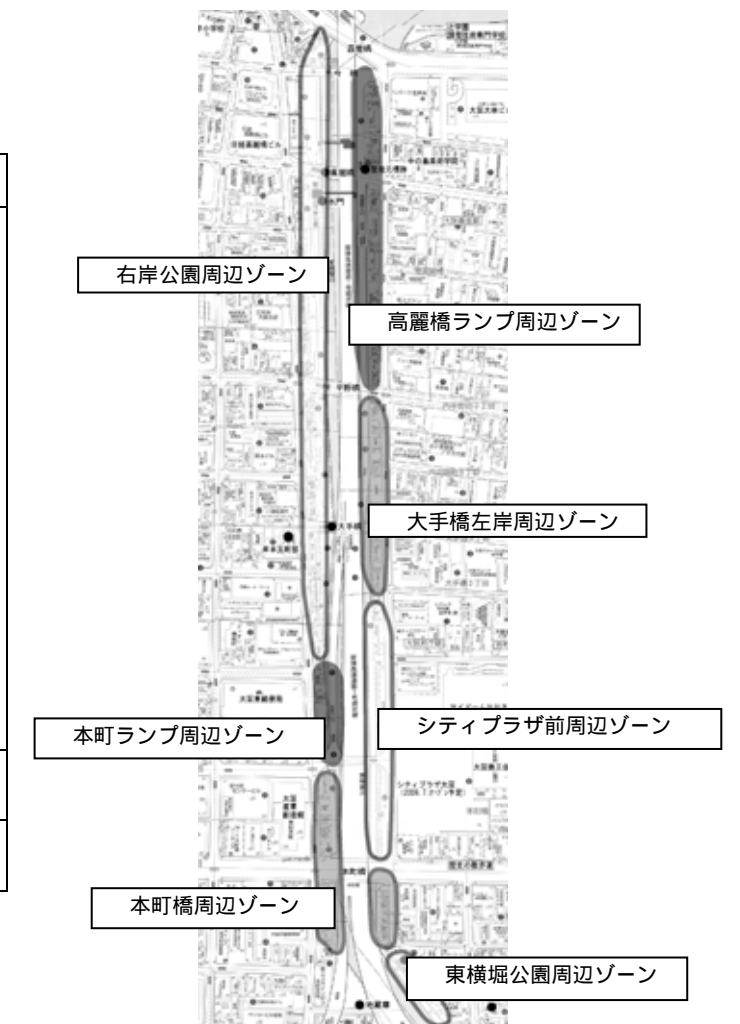
対象地区の水辺を7つにゾーニングし、それぞれの現状と問題点をまとめる。

ゾーン名称	右岸公園周辺	高麗橋ランプ周辺	大手橋左岸周辺	本町ランプ周辺	シティプラザ前周辺	本町橋周辺	東横堀公園周辺
地域資源	水門・岸本瓦町亭・葎屋橋・今橋・高麗橋・平野橋・大手橋	里程元標・個性的なショップ・高麗橋	個性的なショップ	大阪産業創造間・大阪東郵便局	シティプラザ大阪・本町橋・マイドームおおさか・大阪商工会議所	大阪産業創造館・本町橋・個性的なショップ	曲り淵地蔵尊・農人橋・中央区役所
問題点	昼間でも利用者が少ない。フェンスで仕切られ、周辺との関係性が薄い。	高速ランプが水際を占め、川と陸が分断されている。	沿川建物が川に背を向けており、護岸との隙間空間が活かされていない。	ランプは歩行禁止となっており、川辺にも近づくことが出来ない。	道路から川面が見えない。道際が駐車スペースになっており、歩きにくい。	護岸との隙間空間に入ることが出来ず、活用されていない。	川へ向かって開けた魅力的な公園だが、地域で活用されていない。
現況							

2) 水際の空間タイプ別取り組みの方向性

水辺づくりの取り組みの方向性は、水際の空間タイプによる。対象地区の水際を3つに分類し、課題と取り組みの方向性をまとめる。

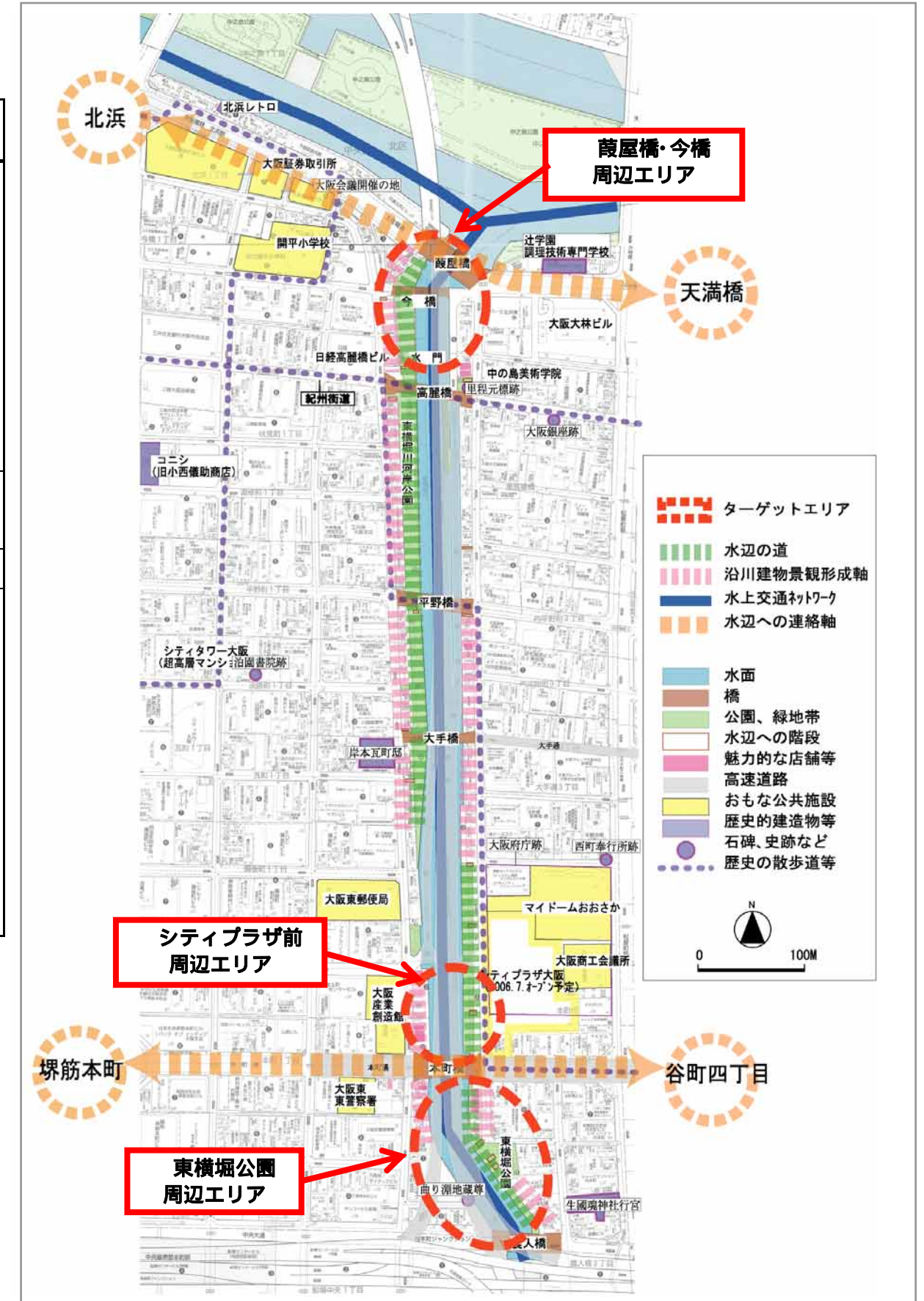
水際タイプ	高架近接タイプ	護岸隙間タイプ	公園・緑地タイプ
特性	高架が低く、沿川の建物に近接している。 	高い垂直護岸と沿川の建物との間に隙間的な護岸用地の空間がある。 	川に面して公園または緑地がある。川辺までアクセスすることが出来る。 
課題	水際が閉鎖的。川からはほとんど陸側を見ることができない。	隙間空間は、民地と公有地からなっており、その管理問題から、自由な活用が困難。	水面に触れることが出来ない。隣接する建物との関係性が断絶されている。
取り組みの方向性	高架を撤去するのは極めて困難。現状での効果的取り組みは難しい。	隙間空間の活用を促進すると共に、沿川建物の壁面の修景を中心に取り組むと効果的。	隣接する建物との関係性を高めると共に、公園・緑地の活用を促進する。



6. ターゲットエリアの設定

効果的に取り組みを進めるため、水際タイプが「公園・緑地タイプ」である3つのゾーンから、それぞれ「シティプラザ前周辺エリア」「東横堀公園周辺エリア」「葎屋橋・今橋周辺エリア」をターゲットエリアとして設定する。

ターゲットエリア	シティプラザ前周辺エリア	東横堀公園周辺エリア	葎屋橋・今橋周辺エリア
現状と問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・堺筋本町と谷町四丁目の間 ・公共施設の集積地 ・シティプラザ大阪(平成18年7月オープン予定)が建設中。 ・東横堀川の船着場(大阪市)の候補地。 ・川沿いの道路からも水際からも川面が見えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・堺筋本町と谷町四丁目の間 ・東横堀川唯一の鉤状曲がり角 ・公園は視覚的にも孤立しており周辺地域との関係性が希薄。 ・川へ向けて取り組みを行う新感覚のショップが集積。 	<ul style="list-style-type: none"> ・北浜と天満橋の間 ・デッドスペースが多く、昼間でも利用者が少ない。 ・旧水門施設の老朽化と新水門管理棟の景観的魅力の不足
整備テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のシンボル空間の形成 ・造成を伴う公園・水際の整備 	周辺環境を活かした対岸一体型公園への再整備	既存公園施設の魅力向上と活用促進
タイトル	四季彩・川舞台	大曲公園	川庭 Cafe
コンセプト	川沿いの道路から視覚的に川面が見えるようにするとともに、往来しやすいアクセスフリーの空間にすることによって、人々が「見る・見られる」、心地よく憩える川辺のシンボル空間とする。	東横堀川の中でも特徴のある河川景観と歴史資源を活かして、川を挟んだ兩岸を一体とした「大曲公園」として整備し、東横堀川のシンボリックな場所とする。また、公園内の護岸用地を活用して「川路地」による歩行者ネットワークを形成するなど、公園用地の活用を促進する。	行き止まりの公園部を中庭的空間とし、地域住民や就業者が楽しみ、集う、地域のサロンとする。また、周辺の通用橋や管理棟を花や緑で演出する。



7. ターゲットエリアのイメージ シティプラザ前周辺エリア

タイトル 「四季彩・川舞台」

現状と問題点

- 北側に阪神高速道路の本町ランプが隣接し、南側には本町通が通る。建設中のシティプラザ大阪（平成18年7月オープン予定）が東に隣接し、産業創造館、東警察署、マイドームおおさか、大阪商工会議所などが集積する地区である。
- 川沿いの道路際に駐車場や高い植栽があったり水際に高い護岸があるなど、川沿いの道路からも水際からも川面が見えない。また、川辺に下りるアクセス路が一箇所しかなく、アクセスもしにくい。
（対象地の北側パーキングスペースは、マイドームおおさかが大阪市の占用許可を得て使用している。）
- 大阪市により、東横堀川の船着場整備の候補地として検討されている。

整備テーマ

- 地域のシンボル空間の形成
- 造成を伴う公園および水辺の整備

コンセプト

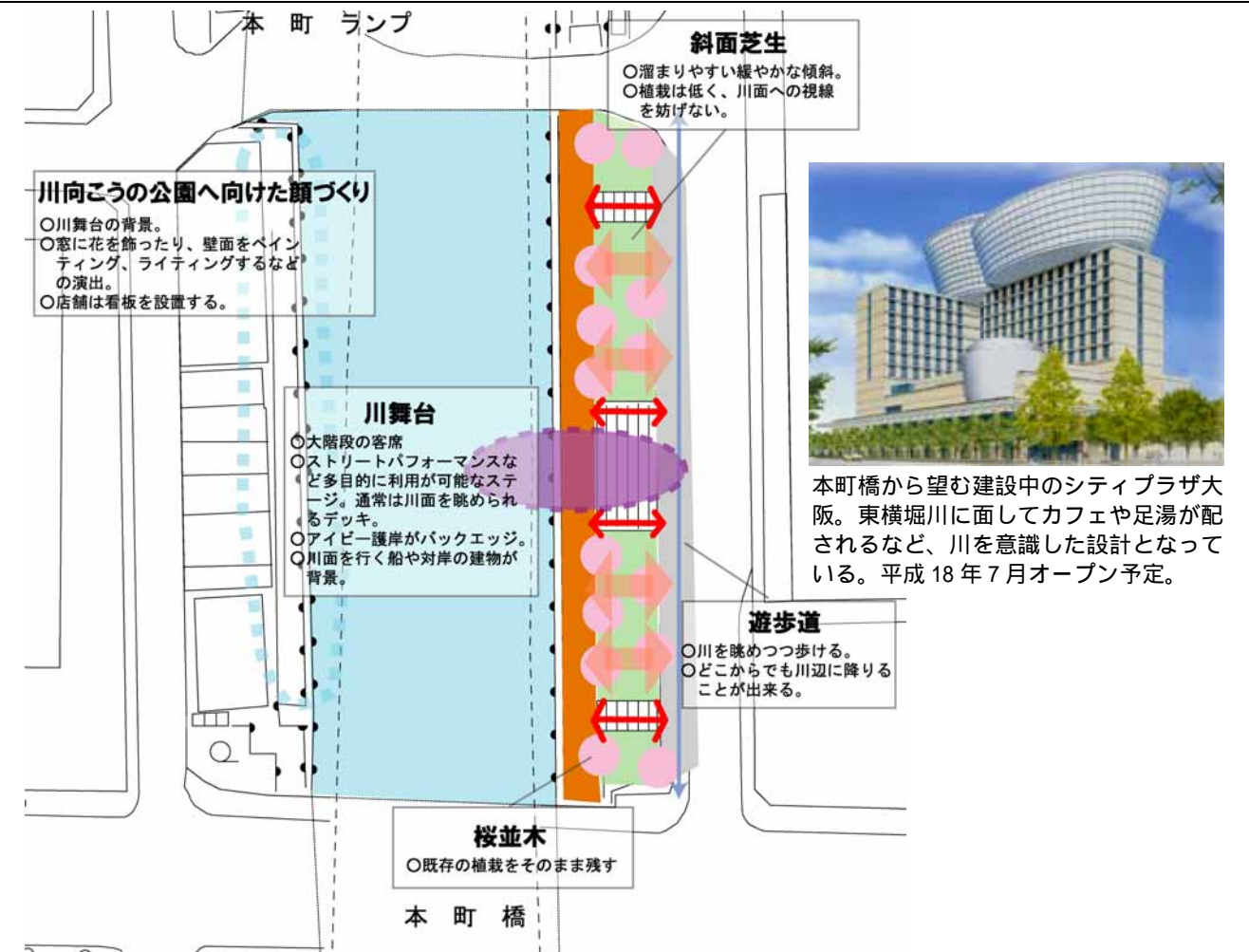
川沿いの道路から視覚的に川面が見えるようにするとともに、往来しやすいアクセスフリーの空間にすることによって、人々が「見る - 見られる」、心地よく憩える川辺のシンボル空間とする。

取り組み方針（例示）

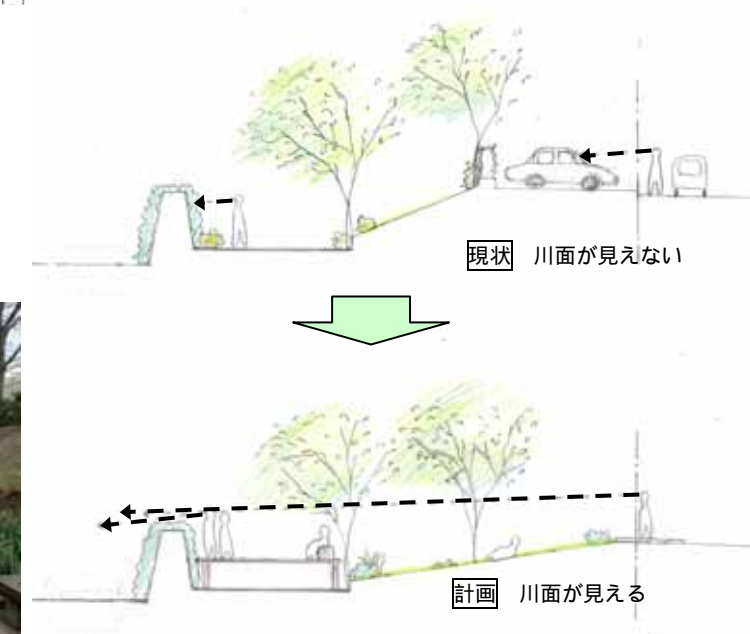
- （公園の整備）**
 - 駐車スペースを活用して、道路と一体となった歩行者空間を整備する。
 - 道路からアクセスフリーのなだらかな芝生斜面を整備し、川辺へ下りる階段を増設。
 - 水際に川舞台となるボードデッキを設置し、それに向けて客席となる大階段を設ける。
 - 既存の桜並木を活かして芝生斜面の造成を行う。
 - ライトアップ演出および安全性の確保のため、照明設備を整備する。
 - 河川の眺望を楽しめるよう、ベンチやテーブルなどを設ける。
- （船着場整備）**
 - 将来的には、ホテルやホール等と結節された船着場を整備する。
- （演出ソフト事業）**
 - 川向かいの建物の壁面について、ペインティングや花飾り、ライトアップなどの演出を呼びかける。
- （地域による多目的利用の促進）**
 - 地域の行事やイベントの会場としての利用を募る。
- （管理組織づくり）**
 - シティプラザ大阪および対岸の住民を中心に、地域による管理団体を組織する。

利用イメージ

- 地域の人々が、お弁当を食べたり散歩をするなど、日常的に川辺で憩う。
- 川舞台の屋外ステージでは、ストリートパフォーマンスやミニコンサートなどが開かれる。
- 天神祭りの際は、川舞台で水上の船とやりとりする。
- 街中で四季を感じる場所として、夜桜見物、紅葉狩りなど、シーズン・時間ごとに風景が変わる。
- なにわ探検クルーズとタイアップし、川と陸の人々の交感風景が見られる。



川沿いの道路からは駐車車両や植栽が、水際には背の高い垂直護岸が妨げとなり、水面を見ることができない



【イメージスケッチ】
水辺と陸の断面関係（上：現状 下：計画）

タイトル 「大曲公園」

現状と問題点

- ・ 北側に本町通、南側に中央大通りが通り、南には中央区役所が立地する。阪神高速のジャンクションが上部にあり、本町橋から農人橋まで薄暗い空間となっている。
- ・ 公園が認知されにくい位置にあり、川沿いの通路が立ち入り禁止となっていたり、対岸の「曲り淵地蔵尊」との関係性が全くないなど、川や周辺地域から孤立し、活用されていない。
- ・ 本町橋近くに新感覚のショップが集積、色彩演出や看板設置など、川へ向けた取り組みがある。

整備テーマ

周辺環境を活かした対岸一体型公園への再整備

コンセプト

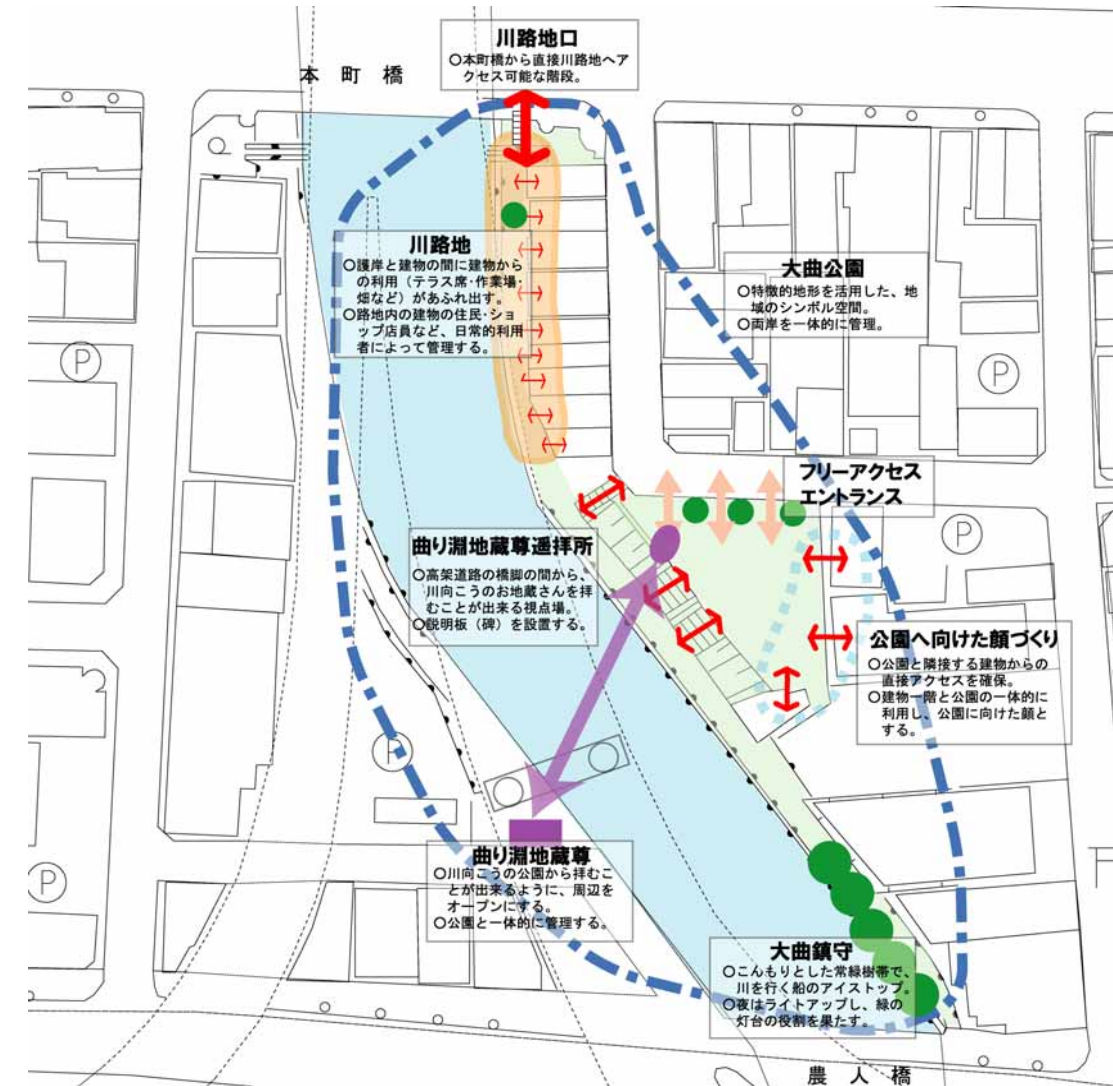
東横堀川の中でも特徴のある河川景観と歴史資源を活かして、川を挟んだ両岸を一体とした「大曲公園」として整備し、東横堀川のシンボリックな場所とする。また、公園内の護岸用地を活用して「川路地」による歩行者ネットワークを形成するなど、公園用地の活用を促進する。

取り組み方針（例示）

- (東横堀公園緑地の整備)
 - ・ 道路際の植栽の足回りの段差をなくし、道路からのアクセスを自由にする。
 - ・ 「曲り淵地蔵尊選拝所」として視点場と案内板を設け、対岸との関係性をつくる。
 - ・ 公園に面した建物へ、公園に顔を向けた1階利用の促進と修景を呼びかける。
- (護岸用地の整備)
 - ・ 本町橋から直接護岸用地へアクセスできる階段を設ける。
 - ・ 川を行く船のアイストップとして、こんもりとした常緑樹帯「大曲鎮守」を設ける。
- (護岸用地の活用促進)
 - ・ 沿川建物から護岸用地へ向けて出入口を設け、護岸壁面の修景・活用を含めたあふれだし利用を推奨し、「川路地」とするよう呼びかける。
- (高架の修景)
 - ・ 阪神高速道路の高架を、大曲に相応しく修景を行う。特に、地蔵尊を間に望む橋脚は、特徴的なデザインとする。
- (管理組織づくり)
 - ・ 公園周辺や川路地の住民などを中心に管理組織をつくり、両岸を一体的に管理する。

利用イメージ

- ・ 地域のシンボル空間として、なにわ探検クルーズなどで訪れる来街者も楽しむ。
- ・ 高速道路の橋脚を活用した映像を映すなどのイベントが定期的で開催されている。
- ・ 曲り淵地蔵尊は、地域の子ども達も管理にかかわり、夏には地蔵盆が行われる。



立入禁止となっている護岸用地



川へ向けて看板を出す店舗



フェンスで覆われた曲り淵地蔵尊



【イメージスケッチ】
本町橋から川路地を見下ろす。

タイトル 「川庭 Cafe」

現状と問題点

- ・ 北側に土佐堀通、南側に平野町通が通る、北浜ビジネス街と天満橋の中間地帯。
- ・ 公園周辺にはフェンスが設けられ、隣接する建物との関係性が分断されており、デッドスペースが多く、昼間でも利用者が少ない。
- ・ 旧水門の管理用通路橋は老朽化しており、管理棟は新しいが景観の魅力とはなっていない。

整備テーマ

既存公園施設の魅力向上と活用促進

コンセプト

行き止まりの公園部を中庭的空間とし、地域住民や就業者が楽しみ、集う、地域のサロンとする。また、周辺の通用橋や管理棟を花や緑で演出する。

取り組み方針（例示）

（公園の整備）

- ・ フェンスを撤去するなどして、隣接する建物から直接アクセスできるように整備する。
- ・ 飲食店のバックヤードとして、橋の下を室として整備し、水道・ガス・電気設備を整える。

（通路橋・管理棟の演出）

- ・ ペインティング、花飾り、ライトアップなどによって演出。
- ・ 抜本的には施設そのものを撤去することも視野に入れる。

（演出ソフト事業）

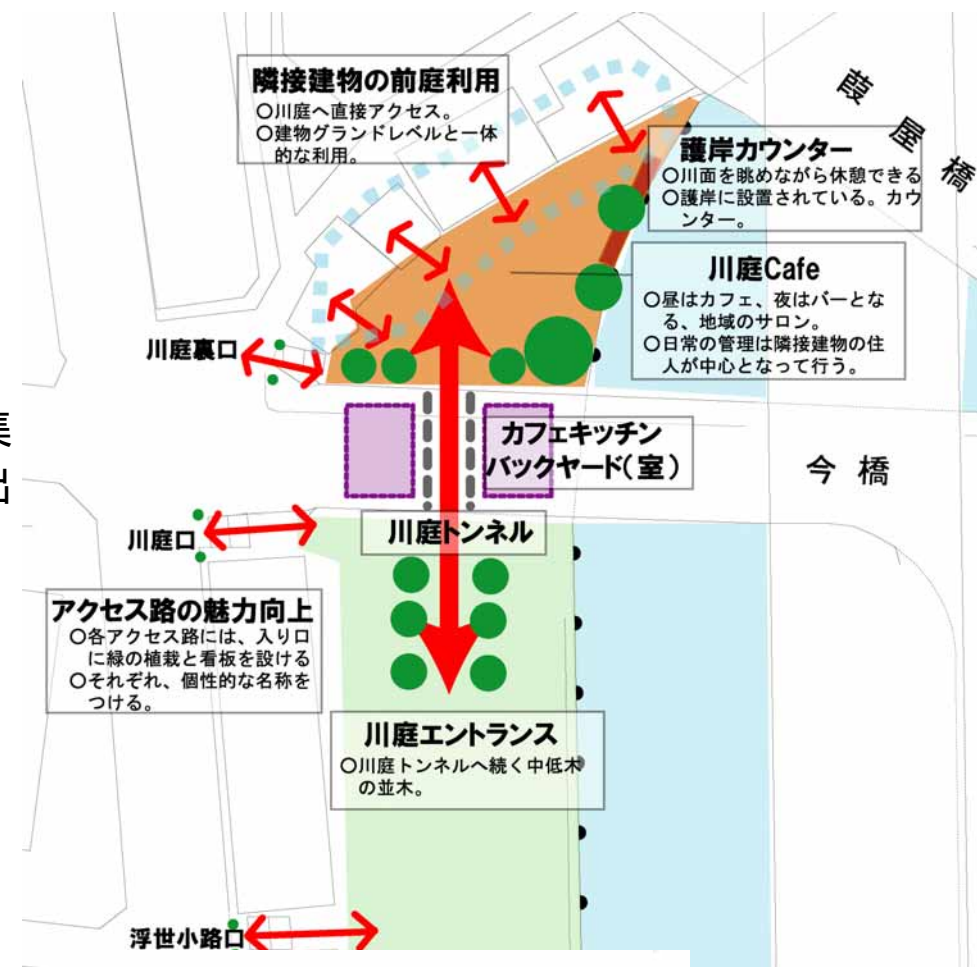
- ・ 公園に面した建物へ、公園に顔を向けた1階利用の促進と修景を呼びかける。
- ・ アクセス路の入口周辺や川庭のエントランスなど、効果的なポイントを花や緑の飾り付けやライトアップなどで演出する。
- ・ 「浮世小路口」「平野水門坂」など、それぞれのアクセス路に呼び名をつける。

（管理運営組織づくり）

- ・ 公園に面した建物の住民を中心に、地域による管理団体を組織する。
- ・ 地域の管理団体が、川庭を運営する事業主体を決定する。

利用イメージ

- ・ まず、春秋の気候が良いときに、オープンカフェの社会実験を試みる。
- ・ 昼はCafe、夜はBarとして、主婦から就業者、就学者まで、時間によって多様な地域の人々が集う。
- ・ 今橋下をくぐるルートを中心に、メインアクセスとし、エントランスとして修景、演出する。
- ・ 川からの眺めは、東横堀川の入口を意識でき、水都を実感できる。



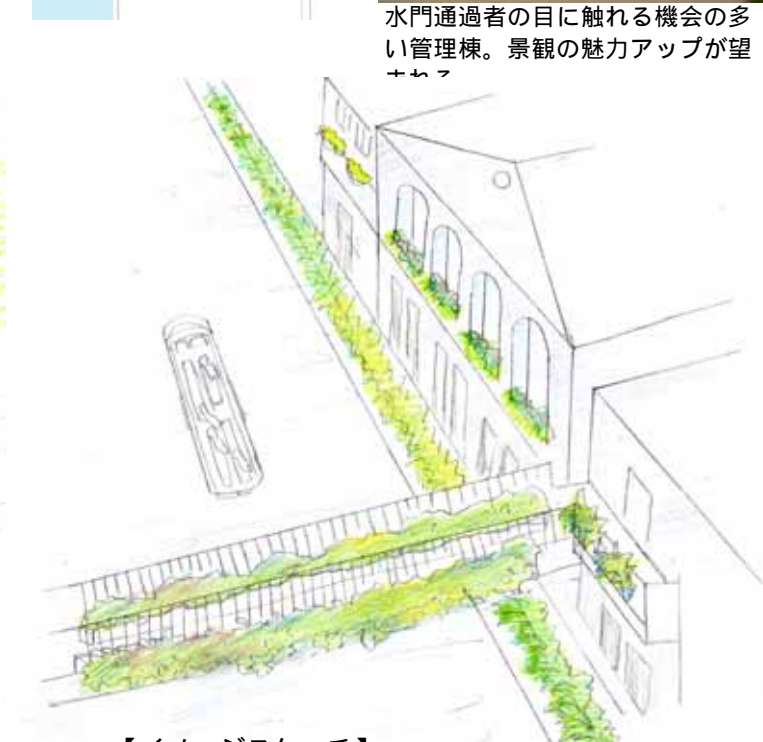
フェンスで覆われる今橋周辺の公園。デッドスペースが多い。



水門通過者の目に触れる機会が多い管理棟。景観の魅力アップが望まれる。



【イメージスケッチ】
今橋からみた川庭カフェ



【イメージスケッチ】
花と緑で飾られた水門管理棟

8. 水辺の魅力アップに向けた重点プロジェクト(案)

1) 平成18年度の重点プロジェクト

<全体>

「川・まち」地域資源マップづくり・HPづくり

内容：東横堀川ワーキングで、川とまちをつなぐ水辺の情報やまちあるきの情報を盛り込んだマップ・HPを作成する。

川ぐるみライトアップ作戦

場所：店舗や住宅など、沿川の各戸。当面の重点エリアは水門周辺と本町橋周辺。
内容：川沿いの建物の川側に、電球・LEDを最低1個以上飾ろうキャンペーンを展開。電球レンタルシステムも検討。

川辺の花飾り

場所：店舗や住宅など、沿川の各戸。当面の重点エリアは水門周辺と本町橋周辺。
内容：川沿いの建物の川側に、花を飾ろうキャンペーンを展開。花飾り教室などのワークショップも展開。

<ターゲットエリア>

川に向けたシンボルづくり

場所：シティプラザ前周辺
内容：周辺を美化・清掃し、花と緑で装飾・ライトアップ。「まちの顔」空間を創出する。

川と橋を楽しむオープンカフェ(社会実験)

場所：葎屋橋・今橋周辺
内容：公園を活用し、オープンカフェを開催。ミニコンサートやトークショーなどを行う。

関連イベントと連動して開催
平成18年7月 シティプラザ大阪オープン
9月 秋の舟運祭り
12月 光のルネサンス

第1回
東横堀
川祭り

2) 今後のスケジュール

場所	カテゴリ	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	備考
		世界バラ会議		京阪電鉄中之島新線開通	シンボルイベント	
全体	景観	川ぐるみライトアップ作戦 / 川辺の花飾り	川辺の窓飾りコンテスト	川辺の窓飾りコンテスト	川辺の窓飾りコンテスト	
	広報	「川・まち」地域資源マップ作成 HPづくり		HPの運営	東横堀川 水辺フォーラム	
	環境		川の掃除隊 水質調査隊	川の掃除隊	川の掃除隊 水質改善生物の飼育	
	舟運	船着場整備・およびその活用に向けた働きかけおよび提言		社会実験の活用による舟運活性化の検討		
	研究、その他		沿川店舗共催スタンプラリー	東横堀川の冊子作成		
ターゲットエリア	シティプラザ前	川に向けたシンボルづくりなど賑わいイベントの開催		公園整備に向けた働きかけおよび提言		
	東横堀公園	曲り淵地蔵尊の地蔵盆開催		公園整備に向けた働きかけおよび提言		
	葎屋橋・今橋	川と橋を楽しむオープンカフェなど社会実験の活用		公園整備に向けた働きかけおよび提言		

資料編

◆————— 目 次 —————◆

1. モデルゾーン図	資 - 1
2. 大阪・水辺のランドスケープ研究会の会議記録.....	資 - 2
1) 第1回 大阪・水辺のランドスケープ研究会	
2) 第2回 大阪・水辺のランドスケープ研究会	
3. 東横堀川ワーキンググループの活動記録	資 - 5
1) 東横堀川ワーキンググループ準備会	
2) 第1回 東横堀川ワーキング	
3) 船上ワークショップ	
4) 第2回 東横堀川ワーキング	
4. 船上ワークショップ案内チラシ	資 - 8

2. 大阪・水辺のランドスケープ研究会の会議記録

1) 第1回 大阪・水辺のランドスケープ研究会

開催概要

日時：平成17年8月22日(月)15:00~16:30

場所：大阪商工会議所 4階 特別会議室

出席者：

<座長>	大阪商工会議所	常議員 / 都市再生委員会副委員長	立野 純三
<メンバー>	大阪ガス株式会社	経営調査室長	小西池 透
	船場賑わいの会	事務局長	藤井 聡一郎
	阪神高速道路株式会社	理事	田村 恒一
<アドバイザー>	大阪府立大学	教授	増田 昇
	大阪市立大学大学院	助教授	橋爪 紳也
<コーディネーター>	株式会社ダン計画研究所	代表取締役	吉野 国夫
<オブザーバー>	近畿地方整備局	企画部 課長補佐	西本 信弘
	大阪府 生活文化部	文化・スポーツ振興室長	桑田 直樹
	大阪府 土木部	河川環境課長	辰谷 義明
	大阪府 生活文化部	文化・スポーツ振興課長補佐	市橋 康信
	大阪府 生活文化部	文化・スポーツ振興室主査	大澤 徹
	大阪府 土木部	河川整備課	灰原 通晴
	大阪市 建設局	河川防災担当部長	西尾 誠
	大阪市 ゆとりとみどり振興局	文化集客部長	藤田 京作
	大阪市 ゆとりとみどり振興局	緑化推進部長	藤野 充博
	大阪市 ゆとりとみどり振興局	事業企画担当課長	北井 保行
	大阪市 ゆとりとみどり振興局	企画調査課担当係長	石山 英幸
	船場賑わいの会		金田 健一
	阪神高速道路公団	計画第二課長	中辻 陽一
	(有)エイライン	技術士	横山 葵
	大阪ガス株式会社	経営調査室課長	岩永 知大
	株式会社ダン計画研究所	研究ディレクター	杉山 友美
	株式会社ダン計画研究所	研究スタッフ	柴田 容子
<事務局>	大阪商工会議所	地域振興部長	豊岡 賢二
		地域振興部課長	堤 成光
		地域振興部	山崎 哲弘

議事要旨

(大阪市ゆとりとみどり振興局 藤田氏)

- ・ 大阪市は川を埋め立ててきた歴史があるが、現在残っている水辺を何とか活かしていきたい。

(大阪ガス株式会社 小西池氏)

- ・ なにわ探検クルーズの夜便に乗ってみると、ライトアップされている水辺は限られていることがわかる。見所は道頓堀川、中之島公会堂、大阪城だけ。
- ・ 一度に水辺のランドスケープを向上させるのは無理。モデルゾーンのように的を絞って取り組み、それを広げていくのがよい。例えば、川辺に窓がある店を紹介したり、ジミー大西と子ども達のイベントのように護岸にアートを描くなど。
- ・ 地域、企業、行政が役割分担して協力する必要がある。
- ・ 光のルネサンスなど、他のイベントとの情報交換、連携が必要。
- ・ 水運の活性化によって、航行する船そのものが景観となるので、新船開発を地元の立場から取り組みたい。

(船場賑わいの会 藤井氏)

- ・ 堂島川や道頓堀川など、東西に流れる川は様々な取り組みが動きつつある。これからは如何に南北に流れる東横堀川、木津川を活性化していくかが課題。

(阪神高速道路公団 田村氏)

- ・ 日本の河川は水面が見えない。徳島の新町川のカフェのように、水辺での遊びのメニューも必要。
- ・ 阪神道路公団は平成17年10月より民営化の予定だが、水辺のランドスケープについて、できることから取り組んでいきたい。

(大阪府立大学 増田教授)

- ・ ロノ字の4つのゾーンには、それぞれランドスケープの特色がある。それらを活かしていけばよい。
- ・ 東横堀川は最も取り組みがいがある地域で、モデルゾーンとしてよいのではないかと。
- ・ 東横堀川を覆う高架は低く、川幅は狭く、暗い空間となっている。これを逆手に取り、「柱廊のある半屋内空間」とみなして活用する視点もある。
- ・ 大阪の技術を活かして、様々な船を開発するのはどうか。乗船する船の選択肢が広がるし、特殊な船が憧れの対象となり、船そのものが一つの景観資源となる。
- ・ 花と緑の取り組みは、単に飾るだけではなく、コンペ形式にするなどの工夫が必要。

(大阪市立大学 橋爪助教授)

- ・ モデルゾーンの対象区域を、いずれは上大和橋まで広げて欲しい。
- ・ 東横堀川はどのようなエリアなのか、誰にでも分かりやすい名称をつけてはどうか。例えば「船場イーストエンド」、「イーストリバーサイド」、「船場イースト」など。モデルゾーンでの取り組みを象徴するような名称もよい。
- ・ 阪神高速道路の高架は、産業都市、工業都市の景観文化として捉えることもできる。
- ・ かつて東横堀川沿いに人が住んでいたときは、灯籠流しなど、水辺に年中行事があった。このような行事の復活など、ソフト事業にも取り組むべき。
- ・ 将来的には、東横堀川の堤防を低くして水面が見える水辺を目指すべき。

(近畿地方整備局 西本氏)

- ・ 東横堀川は特に水が汚く、水質改善が必要。せめて足をつけられるようにしたい。
- ・ 平成 22 年には、「平成の太閤下水」も完成の予定。

(大阪府生活文化部 桑田氏)

- ・ 東横堀川をモデルゾーンとして取り組むのは興味深いですが花と緑の「看板」だけになってしまう危険性がある。
- ・ フルコースが食べられる船を運航するなど、グルメの要素を入れたメニューもよい。
- ・ モデルゾーンの取り組みには市民参加が必要だが、船場に古くから住む旧住民と、新築マンションに入ってきた新住民のコミュニケーションの問題がある。

(大阪府土木部 辰谷氏)

- ・ 京阪電鉄中之島新線の建設工事にともなう護岸整備について、水面が見えるような方向で検討している。
- ・ 東横堀川の阪神高速道路の高架は、昼は屋根の代わりとなり、利点と考えることもできる。

(大阪市建設局 西尾氏)

- ・ 東横堀川の水門利用数は、以前は年間約 100 隻、昨年は約 3500 隻と、大幅に増加している。利用の申請手続きも簡略化する方向だ。
- ・ 東横堀川の護岸は昭和 40 年に整備したが、上町台地のしっかりとした地盤の上であるため、すぐに改修する必要性は低い。
- ・ 現在建設中のシティプラザ大阪の前に船着場を整備することも検討中。

(大阪市ゆとりとみどり振興局 藤野氏)

- ・ 東横堀川沿いに公園を整備したが、沿川の建物は全く変わらなかった。沿川の建物を川に向けるためには、地元の努力が必要。

(株)DAN 計画研究所 吉野)

- ・ 現在、住民の意識は川に向いていないが、ワーキングを行って徐々に川に向けていくよう働きかけたい。

(立野座長)

- ・ 本研究会で、行政の皆さんからの賛同も得られた。協力して頑張っていきたい。

以上

2) 第2回 大阪・水辺のランドスケープ研究会

開催概要

日時：平成18年3月13日(月)13:30~15:30

場所：大阪商工会議所 4階 特別会議室

出席者：

<座長>	大阪商工会議所	常議員 / 都市再生委員会副委員長	立野 純三
<メンバー>	大阪ガス株式会社	経営調査室長	小西池 透
	西日本旅客鉄道株式会社	常務執行役員	土屋 隆一郎
	阪神高速道路株式会社	事業計画グループ長	坂下 泰幸
<アドバイザー>	大阪府立大学	教授	増田 昇
	大阪市立大学大学院	助教授	橋爪 紳也
<コーディネーター>	株式会社ダン計画研究所	代表取締役	吉野 国夫
<オブザーバー>	近畿地方整備局	企画部 企画課長	波多野 真樹
	大阪府 生活文化部	文化・スポーツ振興室主査	大澤 徹
	大阪市 建設局	河川防災担当部長	西尾 誠
	大阪市 ゆとりとみどり振興局	文化集客部長	藤田 京作
	大阪市 ゆとりとみどり振興局	緑化推進部長	藤野 充博
	関西電力株式会社	都市再生プロジェクトチーム副部長	吉田 陽彦
	谷町空庭	代表	山内 美陽子
	株式会社銭高組	執行役員	浦川 豊彦
	西日本旅客鉄道株式会社	営業本部 観光開発室長	室 博
	西日本旅客鉄道株式会社	営業本部長 秘書	岩城 弘明
	大阪ガス株式会社	経営調査室課長	岩永 知大
	株式会社ダン計画研究所	研究スタッフ	柴田 容子
<事務局>	大阪商工会議所	地域振興部長	豊岡 賢二
		地域振興部課長	堤 成光
		地域振興部	山崎 哲弘

議事要旨

東横堀川での今後の取組み等について

- ・ 大阪市建設局は、東横堀川に1~2箇所の船着場を検討中であり、シティプラザ大阪前は有力候補地。平成18年度、舟運事業者と船着場の検討会を行う予定。
- ・ なにわ探検クルーズが就航し、「見られる」ことから徐々にきれいになってきている。「心地よい憩いの場」

であることに加えて「観光的な集客の場」であることが必要。地域の観光資源の掘り起こしをしてはどうか。

- ・ 東横堀川は地域資源が豊富だが、見た目がぱっとしない。シティプラザ大阪前の船着場整備は、地域の核、集客の拠点となる可能性が高い。一目見て楽しい空間にする必要がある。
- ・ 舟運を活性化することによって、地域を盛り上げたい。
- ・ 東横堀川ならではの闇を活かしたライトアップ事業が効果的ではないか。大阪府の「おおさか銀河都市大作戦！」事業の活用も考えられる。
- ・ 高架をライトアップに活用したい。ヨーロッパの回廊風景のように高架そのものをライトアップする他に、高架から水面を照らすような活用方法もある。
- ・ 水門などのターゲットエリアをリーディングケースに、行政・企業・個人が自己責任のもとに花飾りやライトアップする協働方式がよい。種やLEDなどの現物補助はしても、管理はそれぞれで行う。
- ・ 青いLEDは涼し気で夏によい。冬だけではなく、夏のライトアップに活用して欲しい。
- ・ 大阪市建設局は、平成18年度、水門管理棟の花飾りや緑化について、協議会と連携して取り組む。
- ・ 公園の活用が地域の活性化につながる。社会実験を風物詩にして、人が集まる場所にしたい。
- ・ 公園内の立ち入りを制限するフェンスには、それを設けた経緯がある。それ調べた上で、問題が解決されるような提案とすればよい。
- ・ 道頓堀川の水門は地域の小学生が頻繁に見学に来るが、東横堀川の水門はあまり地域に活用されていない。
- ・ 曲り渚地蔵尊で、地域の小学生で地蔵盆を行ってはどうか。

(仮称)東横堀川水辺再生協議会について

- ・ 住民も企業も、少し川から離れていても、連合町会の範囲であれば広く参加してもらえばよい。
- ・ 検討や議論だけではなく、屋外型の事業を具体的に実施することで、地域の参加意識が変わる。
- ・ 現在、大阪市では指定管理者制度の対象は大規模公園のみとなっているが、今後小規模公園にも新たなシステムの構築が求められる。全体を「東横堀公園群」として、協議会で管理してはどうか。
- ・ 今後立ち上げる協議会は実行部隊で、本研究会はサポート・アドバイスというすみわけ。
- ・ 中心となって動いてくれる地元のキーパーソンが重要。
- ・ 他の協議会などとの情報交換や協働化の取り組みも必要。
- ・ 研究会も協力して、協議会としての長期的・短期的な提言、要望をまとめてはどうか。

今後について

- ・ 平成18年度に向けて協議会立ち上げの準備を進める。

以上

3. 東横堀川ワーキンググループの活動記録

1) 東横堀川ワーキンググループ準備会

開催概要

日時：平成17年9月20日(火) 19:30~21:30

場所：Cafe&Interior Deco HUSH フリースペース

出席者：

<地元メンバー>	シティプラザ大阪 フラワー&グリーン うたたね 代表 うたたね (有)ケイビート (有)ケイビート リコッタ・フレスカ 大阪ガス株式会社	施設課長/新会館開設準備室次長 店長 代表取締役 代表取締役 店長 経営調査室課長	伊藤 秀樹 白石 義英 山極 博史 杉島 郁子 吉本 浩三 内木場 美和 横田 知望 岩永 知大
<コーディネーター>	株式会社ダン計画研究所	代表取締役	吉野 国夫
<事務局>	大阪商工会議所 株式会社ダン計画研究所	地域振興部課長 地域振興部 研究スタッフ	堤 成光 山崎 哲弘 柴田 容子

議事要旨

東横堀川周辺の現状について

- 東横堀川河岸公園は利用者がなく、愛護会もない。ホームレスが多く、昼間でも女性一人で訪れるのは怖い。
- 東横堀公園は、公園と道路のレベルが同じであり、目線が通って人も集まる。お昼の時間にはお弁当を持った人も多い。ただし、川面は見えない。川に面してデッキをつくる社会実験もよい。
- 東横堀川河岸公園は、道路とのレベル差があり、通行者から意識されないような空間構成になっている。
- マイドーム前の駐車場はマイドームが管理している。シティプラザ大阪前の駐車場の管理は不明。あの駐車場を緑や遊歩道などにしたほうがよいのではないか。
- 歩行者通行禁止の高速道路入口の橋を渡ると、いつも川にゴミが浮いているのが見える。川の流れがなく、池のようだ。もっと流れがあればよいと思う。
- 東横堀川には、亀や魚がすんでいる。
- 近年、東横堀川を通る船が急激に多くなった。

地元メンバーの関心事など

- 花三・白山氏はこの地域の出身。30年前、東横堀川はドブ川だった。地域の人はいまだに「川は汚いもの」という意識があり、旧住民の川に対する取り組みは難しいかもしれない。
- シティプラザ大阪は、新大阪から移転してきた。平成18年7月にオープン予定。それ以降は、運営会社の人がワーキングに参加の予定。
- ケイビートさんは、大阪市の観光PR用の映像作成を依頼されることがあるが、東横堀川を対象としたことはない。
- アップリケさんは、店から見える対岸の部分(公園)を自分でライトアップしようと考えているらしい。
- リコッタフレスカさんは、最近オープンしたばかりだが、大阪市職員が度々河川敷内の管理状況を確認にくる。店内からの眺めをきれいにしたいだけなのに、なぜとがめられるのか。
- ハッシュの外の木は、もともと生えていた。ライトアップして川からも良く見えるようにすることを考えている。川側の空間には、人が入ることができない。大阪市もそれほど管理する気がないのではないか。
- 花三の前、路上に商品である花をたくさん置いているが、文句をいわれたことはない。「花であれば許される」雰囲気がある。
- 個店レベルで河川敷内の敷地に緑を置いても、特にとがめられない。ただ、それがメディアに乗って広がり、公になると問題になる。

今後の活動についてのアイデア

- 本町橋のたもとに、緑の植え込みがある。これを本ワーキングで手入れすることもできるのではないか。
- 本町橋はよい橋梁だが、夜橋上は暗く、怖い。なんとかできないか。
- 川からの景観を考えると、壁面に色を塗ったり、窓の意匠を工夫するなどが考えられる。
- 地域でマップやチラシ、広報誌を作成するのもよい。
- 沿川をマネジメントする組織を地元でつくれば、それが主体となり沿川で商業行為ができるかもしれない。
- 有名な川を活かした事例でも、もともとはみんなドブ川だったらいい。川を活かした地域活動のスタートは、川のごみ掃除から。
- 「花であれば許される」ところを利用して、本ワーキングでもなにか取り組みができないか。例えば東横堀川の水門に花を飾るなど。
- 単に花を飾ればよいというものでもない。植物には維持管理の問題がある。例えば本町橋上は、上に阪神高速が通っており、雨にぬれない。そのため、本町橋上に植物を植えると、定期的に水をやることを考えねばならず、技術的な問題がある。
- 地域で働いていても、船に乗ったことはなく、川からどのように見えているか分からない。一度みんなで船に乗り、東横堀川の川からの景観を見直してみるのもよい。

以上

東横堀水辺ランドスケープ 瓦版 第1号

発行日:平成17年10月28日
発行:東横堀川ワーキンググループ



大阪では、水都再生の動きが盛んです。そんななか大阪の都心河川の水辺景観の向上を目指して、平成17年8月、大阪水辺のランドスケープ研究会(事務局:大阪商工会議所)が発足しました。しかし、机の上で考えていても始まりません。研究会では、地域の皆さんと一緒に、水辺の景観や環境を良くする知恵を出し合い、具体的に取り組みを進めていくため、「東横堀川ワーキング」をスタートさせました。



第1回東横堀川WG開催
平成17年10月14日(金) 於:大阪商工会議所
第1回東横堀川ワーキングには、東横堀川周辺にお住まいの皆さん、地域でお店をされている方たち、造園や建築の専門家などが出席。東横堀川に対する思いや水辺をよくするためのアイデアを語り合いました。

今後の活動予定

船上ワークショップを開催します!

2005年
11/27(日)
午前10時~

実際に船に乗り、東横堀川の水辺についてみんなで語りませんか?

テーマ「船上で水辺を良くするアイデアを語ろう」
第1部: 川辺のまちあるき
第2部: 船上からの水辺観察会

参加費 500円(弁当付) 雨天 決行

初めての参加も大歓迎です。
※集合時間・場所等は、後日回覧板などでお知らせします。
問合せ: 06-6944-6323 (大阪商工会議所地域振興部・山崎)

東横堀川ワーキングが始まりました!

東横堀川WGとは?
大阪では、水都再生の動きが盛んです。そんななか大阪の都心河川の水辺景観の向上を目指して、平成17年8月、大阪水辺のランドスケープ研究会(事務局:大阪商工会議所)が発足しました。しかし、机の上で考えていても始まりません。研究会では、地域の皆さんと一緒に、水辺の景観や環境を良くする知恵を出し合い、具体的に取り組みを進めていくため、「東横堀川ワーキング」をスタートさせました。

- 川沿いの建物などの魅力向上する
- 東横堀川の垂直護岸は、河川の構造上崩壊は考えにくい。ヨーロッパの街のように、垂直護岸越しに見える向こう側の建物の魅力を高める工夫をした方がよい。
- 今橋から高麗橋の高麗ランを撤去し、並設を再生したい。
- 本門は乗船客の目に触れる時間が長い。花や緑で飾ったり、ライトアップするなどよい。
- 公園緑地を改善活用する
- シティプラザ前の緑地をもっと活用するべき
- 道路沿いの駐車場を撤去し、アクセスを増やし、歩きやすい空間にしようか?
- 東横堀公園または本町橋の橋詰緑地に、船着場を設ける
- 川沿いの公園は、アクセス路が少なく、閉鎖的20、30mほどに出入口を設けてほしい。
- 木のベンチが腐っているなど、公園の手入れが悪い、みんなで管理し、人が集える環境に、春は桜、秋は紅葉と季節ごとに楽しめるよう、多彩な植物で公園を緑化する
- 公園のスペースを活用し、地域の夏祭りや納涼祭、オープンカフェなどを開催、公園の存在をアピールする
- 川と隣をつなげるように工夫
- 川からのアプローチと、地上からのアプローチを連携させる有効的
- 川へ向けての看板や広告も、陸上で集客できなければ意味がない。川から見て興味をそそる

どなたでもご参加いただけます
一緒に東横堀川を魅力的にしませんか? 東横堀川WGは、東横堀川の水辺の環境や景観に関心がある方なら、どなたでも大歓迎です。

東横堀水辺ランドスケープ 瓦版 第2号

発行日:平成17年12月21日
発行:東横堀川ワーキンググループ

陸と川がまじりあふ
平成17年11月27日(日)、東横堀川の水辺を良くするアイデアを語ろうをテーマに、東横堀川船上ワークショップを開催しました。地域にお住まいの方や働いている方、研究会委員や専門家など、計28名が参加。臨場感あふれる船上で、意見交換をしました。



水辺の魅力アップ
東横堀川ワーキングでは、これらのアイデアをもとに「東横堀川水辺の魅力アッププラン」としてまとめ、提案していく予定です。これからは、地域の知恵を集め、実践的に取り組みを進めていきます。

船上ワークショップ開催!
地上の案内や、またその反対の情報川や橋の歴史など、両方盛り込んだ冊子をつくる。
・全面的な見直しで、川の中の水辺生物などが見え、川の物語をつくり、入館料を川の管理費にあてようか?
・川を単に「見る」だけでなく、気軽に水に「触れる」ことができる川の駅をほしい。防災の観点からも、水汲めるとよい。
・水辺に人が集わないと活性化しない。水面に納涼船のような浮き輪を出して、お店を開く。観音は乗り換えたい。
●ライトアップなどの演出
・護岸壁面をカナルにライトアップしたり、高架を利用して、フタタリウムをするなど、東横堀川ならではの特色を活かして、他の都心河川では難しい、不思議な空間として演出
・ライトアップすれば、暗い川沿いの治安にもよい。
・東横堀川は、流れがない人工的でも、水の流れるをつくり、ライトアップするなど演出できないか?

●環境教育など地域の意識を改革
・川沿い探検体験「魚の放流」など、地域の幼稚園児、小学生などの教育の校外学習の場に、子供の目線でつくった川沿い「見」も面白い。
・フリーペーパーやマップなどで、周知し、川沿いが建物の「手」という意識を払拭する。
●川沿いを歩きやすい空間に
・護岸内側の管理用地を解放し、デッキを設置、川面が見えるような遊歩道にする。
・高麗橋から中之島公園の間に歩行者と自転車専用の橋をかけて、中之島から道頓堀まで歩けるサイクリングができるようにしたらどうか?

どなたでもご参加いただけます
一緒に東横堀川を魅力的にしませんか? 東横堀川WGは、東横堀川の水辺の環境や景観に関心がある方なら、どなたでも大歓迎です。
次回ワーキング
平成18年1月下旬開催予定
問合せ: 大阪商工会議所 地域振興部・山崎 TEL 06-6944-6323

東横堀川 水辺ランドスケープ 瓦版 第3号

発行日：平成18年3月5日
発行：東横堀川ワーキンググループ

「水辺の魅力向上についての提案」を検討

東横堀川ワーキンググループでは、これまでのワーキングおよびワークショップでの意見をとりまとめ、「東横堀川水辺の魅力向上についての提案案」を作成しました。平成18年2月に開催した第2回ワーキングでは、この内容について意見交換を行うとともに、その実現に向けた今後の組織のあり方や取組みの進め方について話し合いました。

提案の内容についての意見

- 水際だけでなく、舟運や水質など、川そのものに注目した取組みも必要。
- 地域内の話ばかりではなく、外から人が訪れる様なインパクトがある提案にするべき。水都大阪「川の回廊」として、広く外へアピールできるような取組みを盛り込んでほしい。
- 花や緑を植えるには、東横堀川周辺は日当たりが悪い、花と緑に限定せず、窓辺飾りコンテナを開催するのはどうか。
- 高架道路やストリートファニチャーなど、東横堀川共通のデザインコードを決めるのはどうか。
- 平成の太閤下木水門の整備によって、東横堀川の水質は改善の方向にある。地域でも、真珠貝やサクラマスなど水質を浄化する生物を飼育したり、子どもの水質調査隊川の掃除隊を実施するなど、水質向上について取組んでほしい。
- 大阪浴衣など、まだ知られていない東横堀川の水辺の歴史資源がたくさんある。地域の歴史資源の掘り返しをしてはどうか。
- 川に向かった店舗の紹介など、ホームページで情報発信し、店舗で連携してスタンプリナーなどをしてはどうか。

今後の取組みの進め方について

- 川辺の公園でのオープンカフェ社会実験は、実現可能な範囲からスタートすればよい。
- まずはメンバー自身が「楽しむこと」が大前提で、考へたり思いを共有する活動からスタートするのがよい。
- 地域での取組みの第一歩として、周辺の掃除を始めた生活しているゴミの散乱などが気になる。
- 地域資源と捉えられていないものも、地域の人が資源と捉えて地域資源にすることができ、一つ一つが小さくても、数を集めれば全体としてよくなる。
- 沿川の住民に興味を持って理解してもらう工夫が必要。
- 広い範囲から東横堀川が認知されれば、地域にプライドが育つ。内外のオープンな関係性が必要。
- この活動の参加者は、沿川に住む人に限る必要はない。広く地域に呼びかけ、市民活動家やサポーターなどにも参加してもらえばよい。
- 中央区民新聞など、地域の既存の広報媒体に記事を掲載してもらい、広くメンバーを募る方法もある。
- 地道な活動を続け、人の交流やネットワークを広げることと、地域に愛着が生まれるようになる。そんな取組みにしたい。

新しい提案や協議会の設立へ

東横堀川ワーキンググループでは、今回の議論を踏まえて、水辺の魅力向上についての提案をまとめ、各方面へ働きかけていく予定です。また、平成18年春の「仮称東横堀川水辺再生協議会」の立ち上げを目指します。

- 様々な職業、立場のメンバーがいる、参加の形に工夫が必要。
- 組織の名称は、地域に親しまれるようなものにした。
- 公園や護岸用地など、官有地の活用はハードルが高いが、大阪府のアドプティブ制度のように、個人ではなく団体として取組む方法がある。そのためにも、協議会のような信用ある組織として、ワーキンググループの体制を整えていく必要がある。



第2回東横堀川WG開催

平成18年2月21日（火）於：大阪商工会議所
第2回東横堀川ワーキングでは、東横堀川周辺にお住まいの皆さん、地域でお店をされている方などを中心に、東横堀川の水辺の魅力向上についての提案や今後の活動について、熱い議論が交わされました。

どなたでもご参加いただけます

一緒に東横堀川を魅力的にしませんか？ 東横堀川WGは、東横堀川の水辺の環境や景観に関心がある方なら、どなたでも大歓迎です。

問合せ：大阪商工会議所 地域振興部・山崎 TEL 06-6944-6323

4. 船上ワークショップ案内チラシ

 大阪商工会議所 (<http://www.osaka.cci.or.jp/>)

大阪・水辺のランドスケープ研究会 東横堀川ワーキング

東横堀川・船上ワークショップのご案内

テーマ「船上で水辺を良くするアイデアを語ろう」

大阪都心を流れる東横堀川。川面から眺めてみたことはありますか？
実際に船に乗り、水辺の魅力を活かすアイデアを、どんどん出し合ひましょう！

■開催日時 平成 17 年 11 月 27 日 (日)
午前 10 時～午後 1 時

■集合場所 東横堀公園 (中央区本町橋 5 : 右図参照)

■プログラム 第 1 部 川辺のまち歩き (10:00～)

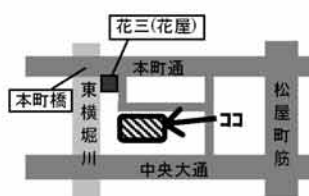
<東横堀公園 ⇒ 今橋>

船に乗る前に、東横堀川沿いを 30 分程度散策します。
歩きやすい靴でご参加ください。

第 2 部 船上からの水辺観察会 (11:00～)

<銚流橋北詰若松浜発着>

船に乗り、東横堀川の水辺を観察します。お弁当を食べながら、
みんなで水辺をよくするアイデアを語り合ひましょう。
(13:00 銚流橋北詰若松浜で解散)



参加費
500 円
(弁当付)

雨天
決行

■主催 大阪・水辺のランドスケープ研究会 東横堀ワーキンググループ

当研究会は、大阪都心の水辺景観の魅力向上を目指して立ち上げました。東横堀川ワーキンググループでは、地域の皆さんとともに、具体的な取り組みを進めていきます。

■申込み/問合せ 大阪商工会議所地域振興部 担当：山崎

お名前・ご住所・電話番号等をご記入の上、ファックスまたは Eメールにてお申込み下さい。
定員になり次第締め切らせていただきます。お早めにお申し込みください。

Tel:06-6944-6323 Fax:06-6944-6330 E-mail:yamasaki@osaka.cci.or.jp

初めての方の参加も大歓迎です。

申込書

大阪商工会議所 地域振興部 山崎 宛

Fax:06-6944-6330

E-mail:yamasaki@osaka.cci.or.jp

東横堀川・船上ワークショップ (平成 17 年 11 月 27 日)

お名前	
ご住所	
電話番号	携帯番号 (よろしければご記入ください)
Eメール (よろしければご記入ください)	

大阪・水辺のランドスケープ調査報告書
「東横堀川・水辺の魅力向上プログラム」

平成18年3月

大阪商工会議所
(調査協力:株ダン計画研究所)